

令和 3 年度

前期日程

地理歴史問題

〔注意〕

1. 問題冊子及び解答用冊子は、試験開始の合図があるまで開いてはいけない。
2. 受験番号は、解答用紙の受験番号欄（計 6 か所）に正確に記入すること。
3. 問題冊子は、表紙を除き 1 ページから 8 ページまでである。5 ページ以下は、下書き用紙である。脱落している場合は直ちに申し出ること。
4. 解答用冊子には、解答用紙 3 枚が折り込まれている。解答用紙をミシン目に従って切り離すこと。
5. 解答は、解答用紙の指定されたところに記入すること。枠からはみ出してはいけない。
6. 問題冊子の下書き用紙のほか、問題冊子の余白も下書きに使用してよい。
7. 解答用紙は持ち帰ってはいけない。
8. 問題冊子は持ち帰ること。

I 世界史問題

(I) 以下の文章を読み、下の問い(問1～問3)に答えなさい。

一般信徒は神の法を知る必要はなく、聖職者や説教師たちが生の声で述べた知識だけで彼らには十分だと、うそぶく異端者に耳を傾けるべきではない。なぜなら、聖書が教会の信じるところであり、正しい信仰の意味でそれがはっきりと知られれば知られるほど、良いことだからである。それゆえ、一般信徒が信仰を知らねばならないのだから、もっともよく知られた言語で教えられねばならない。(世界史資料5 ヨーロッパ世界の成立と膨張 第3章ヨーロッパの社会と宗教 135 ジョン・ウィクリフの改革とロラード派14世紀、歴史学研究会)

問1 以上は14世紀後半のイングランドの神学者による文章である。著者(A)と、その影響を受けたボヘミアの宗教者(B)およびザクセン選帝侯の庇護を受けた宗教者(C)の名前として適当なものを、それぞれ下の選択肢から選び、数字で答えなさい。

- | | |
|--------------|-------------------|
| (1) ウィクリフ | (2) フス |
| (3) ルター | (4) ツヴィングリ |
| (5) ワット＝タイラー | (6) ウィリアム＝オブ＝オッカム |
| (7) カルヴァン | |

問2 上記の宗教者A・B・Cはともに、下線部の「異端者」のどのような信仰のあり方を批判し、それをどのような方法で変革しようと試みたのか、論述しなさい。ただし、「異端者」とは何を指すかを明示すること(120字程度)。

問3 問2で答えた「異端者」に対しては、14世紀以前にも、様々な批判が示され、その「異端者」自身も、組織の腐敗や対抗勢力の出現に対峙するなかで、様々な刷新を試みてきた。11世紀のそれは修道院出身者が主導したものであり、13世紀のそれは民衆主体の運動を一部は排除し、一部は内部に取り込むことで進められた。「異端者」は、当時のどのような状況を、どのように変革しようとしたのか、11世紀・13世紀のそれぞれについて論述しなさい。ただし、下記の語句をすべて使用すること(200字程度)。

聖職売買 清貧 カタリ派 托鉢修道会

(Ⅲ) 以下の文章を読み、下の問い(問1・問2)に答えなさい。

下に掲げる図Ⅰ・図Ⅱは、いずれも、アフリカ大陸原産の大型草食獣・キリンが、15世紀当時における東西の権力者に献上された様子を描いたものである。左は、明王朝の皇帝、朱棣^{てい}(永楽帝、在位1402-24年)への、右はフィレンツェの^①ロレンツォ＝デ＝メディチ(1449-92年)に対する献納品として、^②キリンが描きこまれている。異域に生息する巨大な珍獣というプレゼントは、権力者の威光を演出し広く宣示するために、あるいは古典期の博物学的な知識とのつながりを示すうえで、絶好の題材だっただろう。

グローバル規模での人と人の交流に翻弄される動物をめぐる問題は、現在も形をかえて多くの論議を巻き起こしつつある。



図Ⅰ 瑞応麒麟図(沈度題)



図Ⅱ 各国大使から贈り物を受け取るロレンツォ(G. ヴェザーリ)

問1 図Ⅰは、下線部①の人物に対してベンガルから贈られたキリンを描いたものとされる。キリンが下線部①の人物に献上された背景について、明王朝内外の政治・軍事的状況を踏まえて論述しなさい。なお、絵のタイトルも参考にしつつ、使節の服装やキリンが示す象徴的意味についても、論及すること(200字程度)。

問 2 図Ⅱの右上部分には、下線部②の人物に対してマムルーク朝のスルタンより贈呈されたキリンが見える。下線部②の人物が保護したとされる文化活動およびその背景について、イタリア半島外部の要素にも重点を置きつつ、論述しなさい(200 字程度)。

Ⅲ) 以下の文章を読み、下の問いに答えなさい。

2020年6月、サウジアラビアは新型コロナウイルス感染症の拡大を防止する目的で、巡礼月におけるメッカへの巡礼者の受け入れを休止する旨を発表した。これにより、サウジアラビア国内の少数の巡礼者以外は巡礼を行えないこととなった。巡礼月に行われるメッカ巡礼は「大巡礼」と呼ばれ、イスラム教徒の重要な宗教行為である。たとえ貧しくとも生涯をかけて巡礼資金を貯め、命がけで大巡礼に出る者も少なくない。そのため、サウジアラビアの決定は異例のことであった。

もっとも、過去には疫禍や反乱、戦争、そのほか宗教的、政治的な対立などの理由によって大巡礼が一時中断したり、低迷することはあった。たとえば2016年にはイランからの巡礼が一時、停止した。前年の大巡礼において発生した将棋倒し事故に端を発する両国の政治的対立が原因であったが、その背景には両国の宗教事情も深く関係していた。両国で大勢を占める宗派のあり方について、論述しなさい。ただし、以下の語句をすべて用いること(150字程度)。

アッバース朝 アリー ウマイヤ朝
カリフ 預言者 四人